

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句： あなたがたの光を人々のまえに輝かしなさい。 (マタイによる福音書5：16)

保育目標：	0歳児	・周りの様子を感じて、色々なことをしてみる。
	1歳児	・友だちや保育者と楽しんで身体を動かして遊ぶ。
	2歳児	・自然の面白さや季節の変化を感じて楽しむ。簡単な身の回りのことをやってみようとする。
	3歳児	・季節を感じ、身体を動かす心地良さを感じる。リズムや音楽に合わせて動く。
	4歳児	・友だちと一緒にでも一人でも、夢中になって遊びを探求する。
	5歳児	・静と動の両方の時を豊かに心地良く過ごす。絵本や物語をゆっくり楽しむ。

朝夕は涼しく過ごしやすくなり、澄み渡る空を見て「秋」を感じるこの頃です。

ある日、園庭に落ちていたどんぐりを拾う子ども達がありました。2歳児のY君も「自分も！」と真剣な表情で黙々と探していましたが、すでに地面には見当たらず、どこから落ちたのだろうとふと上を見上げると木についている緑色のどんぐりを見つけました。暫くその木を見つめていた後、そばにあった椅子に登り手を伸ばしましたが届きません。そこでシャベルを持って来ますが、やはり届きません。何度も繰り返していましたが、どうしても手に入らない悔しさにポン！とシャベルを投げました。するとその先にどんぐりが転がっていました。目を丸くして驚いた表情をした後、満面の笑顔でどんぐりを手にしたY君はそばにいた私に見せてくれました。「可愛いどんぐりみつけたね～。うれしいね～」と言うと満足そうに「うん！」と笑って答えてくれました。2歳の小さな子どもも幼児に負けず劣らず色々考えて何とかしようとトライする姿に頼もしさを感じると共にY君の喜びがより大きくなる神さまの粋な計らいに心くすぐられました。

またこんな事もありました。年長の男の子達がとかげを飼っていて、餌にする為に山のような量のコオロギを観察ケースに集めていました。ケースの中のコオロギをみて「なんだかかわいそうじゃない？狭くて苦しそう。動けなさそう。」と私が言うと「餌だから大丈夫！それにちゃんと動いてるよ！」と言います。「一度に捕まえないで毎日1匹ずつ捕まえれば？」と言うと「だってとかげが空腹空いて、沢山食べたい時どうするの？その時なかったらかわいそうでしょ！」「なるほど・・・」堂々と反論する姿はあっぱれな答えっぷり。けれど私も負けじと「でも、コオロギの命だって大事じゃない？元気ない子もいるみたい！」と言うと「分かった！草と水を入れてコオロギも飼ってやろう！」と言い、「それはいいね」と私も賛同すると「コオロギがいた所の草にしようぜ！」と彼らは草を集めに行きました。

一瞬見ただけで「捕まえずぎ。命を、自然物を大事にしないで。」と道徳的に伝えようとしていた私に対して、トカゲやコオロギと十分触れ合って『命』とちゃんと向き合い、その生態を知り、考え、想いを持っていた子ども達。「こどものしている事には必ず意味がある」と改めて痛感しました。「気付いていない事を教えなくちゃ」と大人が先走ってしゃしゃり出なくても子ども達にはちゃんと考え、自分で気付いていける力があるのです。だからと言って大人が何も言わずに見ている事が良い訳では無いとも思います。子どもに想いや考え、都合がある様に大人にも想いがあります。「理解させる。解決させる。教える。」という意気込みではなく、また妥協点でもなく、子どもと話してみて「着地点」を一緒に見つけることが良いのだと思うのです。「命を大事にしてほしい」という私の想いは子ども達に伝わり、一緒に着地点を見つけ、そして子ども達はそこからまた再出発したのかな、と感じた一場面でした。

自然物は子ども達に「興味・好奇心」「考える」「試す」「知恵・知識」「心の開放・心地よさ」「繋がりを感じる」等、沢山の経験と学びを与えてくれますね。

「今年も高いところできているザクロをどうやって取ろうとするのかな？」「落ち葉でどんなふう遊ぶのかな」・・・この秋も自然物と子ども達が仲良くなるエピソードが聞こえてくるのを楽しみにしています。秋は身体を動かすのも気持ちの良い時です。フィールドデイもありますね。近頃はリレーに夢中の年長さんの姿も見られます。思い切り身体を動かし、秋の実りを食べ、心動かして自然物とかかわり、気持ちよい「秋」を満喫してほしいと願っています。

主任 藤肥礼子